

第2章 前回緑のマスタープランの総括

前回緑のマスタープランでは、尾張大國霊神社（国府宮）の社寺林と参道景観の保全、史跡尾張国分寺跡、銀杏畑など、本市の自然や歴史に係る緑の保全活用や産業に係る緑の確保など、多種多様な具体的施策を示しています。

緑地及び都市公園等に関して、前回計画の達成度検証を以下に整理します。

【緑地】

○無秩序な農地の開発を抑え、優良な農地を保全していくために、農業振興地域農用地区域について除外の運用基準を見直し、適切な指導を行うことで農地の保全に努めました。また、市街化区域内の緑地面積は2009(平成21)年度から1.3ha(文化の丘公園 9,962 m²、どうこう公園 3,500 m²、かなしんでん公園 2,500 m²など)増加しています。このように農地の保全や公園整備に努めてきましたが、前回緑のマスタープランに定められていた緑地に関する成果指標には生産緑地や農業振興地域農用地区域が含まれ、これらが減少傾向にあるため、目標値に到達しませんでした。

緑地の整備に係る指標の目標

	項目（指標）	前回緑マス現況値	前回緑マス目標値	現況値
		2009（平成21）年度	2020（令和2）年度	2018（平成30）年度末
緑地	都市計画区域内の緑地面積	3,216ha	3,230ha	3,222ha
	都市計画区域面積に対する緑地の割合	40.6%	40.7%	40.6%
	市街化区域内の緑地面積	48.3ha	56.3ha	48.1ha
	市街地面積に対する緑地の割合	5.4%	5.7%	5.4%

【都市公園等】

○都市計画区域内では、文化の丘公園、大江川親水公園、西町公園などの整備を進めたため、都市計画区域内の都市公園面積は目標値を達成しています。

○都市計画区域の都市公園等面積は約151.3haで、目標達成しており、都市計画区域の1人当たり都市公園等面積も11.1 m²/人と高い値になっているものの、都市計画区域人口が目標値以上であったため、市民1人当たりの都市公園面積の目標値は未達成となっています。

○市街化区域では、文化の丘公園や新町いこいの森公園などの街区公園の整備を進めたものの、面積及び市民1人当たりの都市公園面積ともに目標値は未達成となっています。

○市道の緑化延長については、(都)中大通線の再整備や(都)治郎丸赤池線などの道路緑化を進めたものの、目標値は未達成となっています。

都市公園等の整備に係る指標の目標

	項目（指標）	前回緑マス現況値 2009（平成 21）年度	前回緑マス目標値 2020（令和 2）年度	現況値 2018（平成 30）年度末
人口	都市計画区域内人口	136,965 人※1	131,200 人	136,867 人※2
	市街化区域内人口	53.1 千人	57.8 千人	56.3 千人
都市公園等	都市計画区域内の都市公園面積	55.1ha	67.1ha	66.8ha
	都市計画区域の 1 人当たり都市公園面積	4.0 m ² /人	5.1 m ² /人	4.9 m ² /人
	都市計画区域の都市公園等面積	138.3ha	152.3ha	151.3ha
	都市計画区域の 1 人当たり都市公園等面積	10.1 m ² /人	11.6 m ² /人	11.1 m ² /人
	市街化区域内の都市公園面積	16.5ha	24.5ha	19.9ha
	市街化区域内の 1 人当たり都市公園面積	3.1 m ² /人	4.2 m ² /人	3.5 m ² /人
緑化	市道の緑化延長	39,850m	44,000m	41,000m

※1 2005（平成 17）年 国勢調査

※2 2015（平成 27）年 国勢調査

【総括】

前回緑のマスタープランでは、本市の特色である農地や木曾川周辺の自然環境の保全、桜ネックレスの充実など、多種多様な具体的施策を示していましたが、集中的に施策を実施できなかったことから、計画にあたっては選択と集中を意識することが必要です。